

ボランティア No.33

Volunteer & NPO

特集

第3回

「少子多老の社会を生きる」

P.4-5

「中山間地域の課題から社会の課題へ」
・岡山県中山間地域協働支援センター



NPO法人 吉備野工房ちみち



NPO法人 岡山NPOセンター



ゆうあいセンター
イメージキャラクター
「ゆうあい君」

P.6-7

シリーズ No.3
「NPO で働く！」

P.8

シリーズNo.3
「あなたにとってNPOって？」



NPO法人 岡山市子どもセンター



NPO法人 子育て応援ナビ ぽっかぽか

特集

4回シリーズ

「自分達のこととして
考えていかないと
いけない問題」

第3回「少子多老の社会を生きる」

現在の社会は少子高齢化が進み、すでに少子多老社会を迎えています。このことは下の表1の1990年と2010年の人口を比較してみても明らかです。14歳以下の人口と65歳以上の人口の割合は、20年前から逆転しており、2010年は65歳以上の人口は0～14歳の人口の約2倍になっています。この傾向は少なくとも、今後20年間は続いていくと予測されています。高齢者が高齢者を支える時代、「老老介護」や「介護離職」など新たな介護問題等が起きています。私たちはどんな社会を目指していけばいいのか。今回の特集で考えていきます。

新たな介護問題を考える

高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みとして2000年に介護保険法が施行されてから10年が経ちました。核家族化の進行、介護する家族の高齢化などの問題を想定して創設された制度ですが、そうした問題がより深刻になっています。

高齢の夫婦や親子が介護をする「老老介護」、認知症高齢者を認知症の家族が介護する「認知介護」、高齢の親を独身の子どもが介護する「シングル介護」などの言葉も生まれ、特に老老介護は、在宅介護の3分の1を占めています（*1）。

こうした中、自らの命を削って介護する方、介護離職を余儀なくされる方、将来の見通しがない中で、共倒れや介護疲れによる介護心中などの痛ましい事件が県内でも起きています。

介護をしている高齢者の3人に1人が「死にたい」と考えたことがあるという調査結果（*2）も

あり、介護・看護疲れによる自殺者も増加し、全国で285人にのぼります（*3）。こうした問題を受けて国でも、在宅を中心とした継続的な介護サービスの実現に向けた議論が行なわれています。

地域包括ケアの必要性

第4期目を迎えている介護保険制度ですが、今、第5期介護保険事業計画策定の方向が検討されています。2012年度の介護報酬・診療報酬の同時改定とあわせて実施される介護保険制度改正に向けて、社会保障審議会介護保険部会の議論が行われました。このなかでは、今年3月にまとめられた「地域包括ケア研究会報告書」が紹介されています。

この報告書は、75歳以上の人口が現在の2倍に増大する2025年（*図1）の地域包括ケアの姿として、施設か在宅か等の住居の種類にかかわらず、日常生活圏域（おおむね30分以内）で「多様なサービス」を24時間365日利用しながら、住み慣れた地域で生

活を継続する姿を描いています。簡単な言い方をすれば、この報告書では、高齢者が家から離れて、施設に入るのではなく、住み慣れた地域でケアを受けながら生活する形を目指すべきだとしており、その実現のために、次の制度改正に向けた検討事項を提言しています。

現在、24時間365日のケアを制度化できるのか、その課題やサービスモデル、ビジネスモデルを検討するため、「24時間地域巡回型訪問サービス」の在り方検討

日本の人口	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年
計(万人)	12274	12607	12717 3%増	12273	11522 10%減
0～14歳	2506	1847	1647 35%減	1320	1114 33%減
15～64歳(A) (生産人口)	8278	8559	8128 2%減	7363	6740 17%減
65歳～(B)	1489	2200	2941 97%増	3589	3666 24%増
高齢者率	12.1%	17.5%	23.1%	29.2%	31.8%
A÷B	5.5人	3.8人	2.7人	2.0人	1.8人
75歳～	597	899	1422 58%増	1873 31%増	2265 21%増

表1 日本の人口動向 参考：国立社会保障・人口問題研究所

*1 出典：厚生労働省「平成16年国民生活基礎調査」
*2 出典：「高齢化社会の中での在宅介護者の現状（平成17年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）自殺企図の実態と予防介入に関する研究分担研究）」
*3 出典：警視庁「平成21年度中における自殺の概要資料」

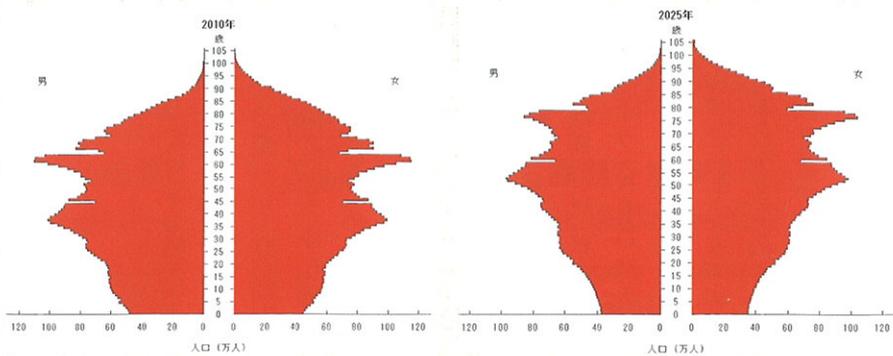


図1 人口ピラミッドの推移 出典：国立社会保障・人口問題研究所

会」を設置して、このサービスの提供できる体制をいかにつくるかを話し合われているところです。

介護をしながら働ける仕組みを目指す

このように私たちは「老老介護」

や「介護離職」などの新たな社会問題に直面しています。ここで、

大事なことは、介護をマイナスにとらえるのではなく、介護をしつつも自分の人生を大切にしていくこと、介護のために離職しなくても良いように支えていく仕組み、介護をしながら働ける社会を目指していくことです。

今から20年も前に、この考えのもとにサービスを開始しているところに、新潟県の「まごころヘルプ」（*有償の住民参加型の在宅福祉サービス）があります。現在は、そうした活動から発展して新たに「地域の茶の間」「常設型地域の茶の間うちの実家」などの活動をしています。そのコンセプトは、主体的な参加と多世代交流をキーワードに、人とのつながり、社会とのつながりを持ちながら自分自身を活かせる居場所です。この考えに共感して、岡山県内でも同じようなサービスや居場所作りを計画・活動している団体もあります。

地域で暮らすために

他にも地域には様々な問題があります。建築後30〜40年が経過した建物の老朽化、入居者の高齢化が進む団地の再生問題。中山間地域で生活し車の運転ができず、家族の支援も得られない交通手段の不自由な高齢者が通院や日常の買い物ができず困っているという「交通弱者・買い物弱者」の問題は、地域で暮らしていくために避けて通れない切実な課題であり、それらを解決していくためには公のサービスを充実させるだけでは限界があります。

団地再生は、住環境の再生はもちろんですが、住民の交流・活動の活性化、すなわちコミュニティの再生が重要になってきます。これらの問題の対策としては、現在各地で空き店舗を活用したサロンの開設や配食サービスの実施、庭掃除やゴミ出しなどちょっとした困りごとを支援するボランティア活動が行われています。

交通弱者へのケアとしては、移

送サービスを担うNPO法人ができたたり、個人で送迎ボランティアを行う人がいたり、企業が移動スーパーを実施している例もあります。

また、アートや食育を通して中山間地域や離島が抱える問題の中に新たな可能性を見出そうと活動している団体もあります。

次の世代に向けて

ゆうあいセンターは、様々なボランティア団体・NPOが利用されています。それぞれの視点、考えの下で、自分達が気づいた課題の解決に向けて取り組んでいます。

まちづくりにかける思いはそれぞれですが、共通しているのは、個々の出会いやつながりを大事にしていること、次の世代の子どもたちが誇りを持って暮らしていくためという大きな目的です。

次のページでは、岡山で活動する3つのNPO法人が、今年から取り組んでいる活動を紹介いたします。（取材・編集 西村）

中山間地域の課題から社会の課題へ



NPO法人 吉備野工房ちみち
阿部 典子さん

少子高齢社会における危機にいち早く直面していると云われるのが中山間地域（*1）です。森林の荒廃や、農林水産業の活力の低下、地域コミュニティ崩壊。私たちはこれらの問題とどう関わっていいのでしょうか。そうした課題解決のための多様なネットワークづくりの中心機関が「岡山県中山間地域協働支援センター」（左ページ参照）です。岡山県からの委託事業として3つのNPO法人が協働で運営しています。そのうちNPO法人吉備野工房ちみち（以下ちみち）の阿部さんと、同じ協働運営者であるNPO法人岡山NPOセンター事務局長石原さんのお二人にお話を伺いました。

活動のきっかけから教えてください。

岡山県でまちづくりの活動を何年か続ける中で、中山間地域の課題に是非はじめに取り組んでみたいと思っていました。中山間地域の課題は、多様で総合的なのでこのセンターの話を聞いたときに、NPO法人まちづくり推進機構の持つ県内地域のネットワーク、NPO法人吉備野工房ちみちの地域資源の発掘力、岡山NPOセンターの横に広いネットワークという、それぞれの強みを活かす必要があると考えて3者で応募しました。

具体的な取り組みについて教えてください。

5つの事業方針を掲げて活動をしています。（*左ページ参照）今年度は特に、人材養成に力を入れています。平成22年7月にまず集落アドバイザー養成研修を行いました。自治会長さんやコミュニティ組織の役員や区長さんなどその地域のリーダーの方のスキルアップとともに、専門的な知識を持つて、外からアドバイスやコーディネートできる人をアドバイザーとして養成する必要があると考えています。この研修には、県北の自治体を中心に約60人が参加しました。

また、「地域にまなざしを向

何十年と生きていくわけだから、考え方が大きく広がります。たとえ将来、地域を離れていても自分の生まれ育った地域に誇りを持つてほしいという想いがあります。

今後の活動について教えてください。

人口の少ない中山間地域になぜ税金を使うのかと考える人はまだ多いです。でも、私たちは中山間地域から多くのものを受け取っています。そこに住む人と交流し、共感してほしい。そのためにも、まず足を運んでもらってその魅力を知り、地域のファンになつてもらいたいですね。地域に関わった方の中には、お家の縁側でご飯を食べるのが本当に楽しみという方もいます。大雪が降ると心配で電話をかけるそうです。そんな方を増やしていくために、まずはモデル的な取り組みをつくり、活動を広げて行きたいと考えています。



NPO法人 岡山NPOセンター
石原 達也さん

*1：中山間地域・・・岡山県では、「山村振興法に規定する山村」、「特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律に規定する特定農山村地域」、「過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域」のいずれかに該当する地域と定義している。

参考：岡山県中山間地域の振興に関する基本条例第2条

人材育成と中山間地域活性化の取組の裾野の拡大を 役割とする中山間地域協働支援センターの取組

5つの着眼点で取り組む事業展開をしています。各事業ごとに、紹介していきます。

1

「地域の自然治癒力を高める」

地域リーダーの育成と仕組みづくり



地域運営の中心となることのできる人材、集落をサポートする立場にある県・市町村担当職員を対象に地域リーダー養成研修を開催。8月に島根県中山間地域研究センター等県外の取組の視察研修を実施。現在、課題解決に向けてやる気を醸成中です。

2

「つながりで課題を解決する」

集落アドバイザーの養成と仕組みづくり

中山間地域の課題解決のためには、外部の人をいかに巻き込むかが重要という考えのもと、コーディネーターとしての集落アドバイザーを養成し、それを機能させるネットワークづくりを支援する事業。既に3回の研修を終え、着々と事業を進めています。



3

「共有・共感のまなざしを増やす」

参加の仕組みづくり



中山間地域以外の人や機関・団体との問題意識を共有するには、地域を見守り、地域の課題に向かい合いながら「楽しむ・共感する」「発信する」「共有する・手伝える」という段階的な参加を促すことが重要です。

多くの人のまなざしを地域に向ける仕組みづくりのため、学生を対象にした中山間地域サポーターズ・カフェ等の事業を行っています。

4

「多様な関わり方を生む」

専門的で大きな仕組みづくり

中山間地域の活性化に関わりを持つNPO、大学、企業等のネットワークをつくり、中山間地域の課題を共有し、より大きな仕組みの中で、課題解決策を検討するための場をつくります。

5

「実践を加速させる」

ノウハウと人材をフル活用するセンター機能の充実

多様な課題に対応できる人材とノウハウをストックし、集落アドバイザーや地域リーダーに伝え、中山間地域のより多くの課題解決に役立てる仕組みを持つセンターをめざしています。

『岡山県中山間地域協働支援センター』

NPO法人まちづくり推進機構岡山、NPO法人吉備野工房ちみち、NPO法人岡山NPOセンターの3者が協働で岡山県より業務を受託。右の基本方針においては、施策を進めるうえでの各種団体とのネットワーク作りの中心として位置づけられています。

HP http://blog.canpan.info/chusankan_oka/
事務局 NPO 法人岡山 NPO センター
〒700-0822
岡山市北区表町1丁目4-64 上之町ビル4階
E-mail npokayama@gmail.com

『岡山県中山間地域活性化基本方針』

岡山県では、平成15年に「岡山県中山間地域の振興に関する基本条例」を制定、平成16年に「岡山県中山間地域活性化基本方針」を策定し各種施策を実施。平成20年度からは、中山間地域等特別支援事業を実施し、単独では集落機能の維持が困難な小規模高齢化集落などが存在する9地域をモデル地区に選定し、集落機能の再編・強化に向けた地域での取組を支援しています。今までの事業を通じて明らかになった課題や社会経済情勢の変化などを踏まえ、施策の重点化を図るとともに、多様な主体との協働により中山間地域の活性化を図るために基本方針の見直しを行い、平成22年9月に「岡山県中山間地域活性化基本方針（改訂版）」を新たに策定しました。

中山間地域には、いわゆる日本の原風景があります。私たちは、そこからお米や水の恵み、田んぼや赤とんぼから安らぎをもらっています。少子高齢の問題、中山間地域の問題をそうした視点で自分の問題として考え、できるところから関わってみるのはどうでしょうか。

シリーズ NPOで働く!

No. 3

NPOという働き方を選んだ方には、これから就職について考えている若者からインタビュー。「NPOで働く」その思いをお伝えします。第3回はNPO法人岡山市子どもセンターで行われている「プレーパーク」で、プレーリーダーとして活動している入江さんには、NPO法人岡山市子どもセンターでゆうあいセンター事業を通じてインターシップに参加した大学生の山村さんと采女さんが聞いていきます。



采女さん 入江さん 山村さん
NPO法人 岡山市子どもセンター

山村 NPO法人岡山市子どもセンターはいろいろな活動を行われているんですね。

入江 そうだね。子どもたちが生の舞台に触れられる場をつくったり、オレンジリボン運動（児童虐待防止）の支援をしたり。私が活動しているプレーパークも活動の一つ。

山村 入江さんがされているプレーパークのプレーリーダーってどんなことをするんですか？

入江 私は、子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」ためのきつ

かけづくりや、何かあったときの救急の対応、準備や片づけなどをしていくんですよ。子どもが危険なことをしようとしているときは「やめて！」と禁止してしまふのではなく、「それどうするの？」って子どもに聞いて、子どもが主導でできるように気をつけている。時々、親子げんかの間に入ったりすることもあるけど（笑）

采女 はじめて見たときは、「子どもと本気で遊んでいる」っていうのがすごく印象的でした。入江さんがNPOの活動に加わられた

きっかけは何だったんですか？

入江 仕事を探しているときに、知人から紹介されたんだよね。「外が好き？」って聞かれて、「嫌いじゃないです」って答えたら、「プレーパークというのをやるんだけど、人を探しているからやってみたい？」って誘われて。でもそのときは「NPO」のことも「プレーパーク」のことも全く知らなかったから、まず新宿の戸山プレーパークに二泊三日で行かせてもらった。そうしたら、そこですごく衝撃を受けたの。公園で、子どもがドロドロになつて遊んでいるし、火起こしをしている親子もいたし。その傍らでは、大人が相撲の土俵を丁寧に作っていて、「遊ぶ場やきっかけを大人が作っているんだ」っていうこともわかった。私は幼い頃、家が五右衛門風呂を起こしたり薪をくべたりすることもあったんだけど、今の子どもたちってそんな場もないんだよね。はじめはプレーパークは月3日ぐらいしかやっていなかったん

んだけど、だんだんと週5日連続でプレーパークをやるとういうことになって。そのときは他の仕事もしていたんだけど、プレーパークのような自由な空間を支える仕事がしたくて、その仕事を辞めて、プレーリーダーになったんだ。

采女 NPOボランティアっていうイメージがあったから、お金をもらって働くっていうことが不思議でした。

NPOで働く、NPOを支える

采女 NPOで働く魅力ってなんですか？

入江 NPOだからとか、一般企業だからとか、特別思ったことはないなあ。確かに福利厚生が手薄だったりすることもありますが、そこに自分が重きを置いてなかったから、気にならない。けど、収入は少ない。でもそれ以上にやりがいや楽しさがある。ただ、将来どうなるのかなとか、この活動っていつまで続くんだろうとか、不安もずっとある。もしかしたら立場

が変わって、自分が現場に立つのではなくなつて、外から支える一人になることだつてあるだろうし、まだまだ未知数だなつて思う。

に來ると大人も変わるんだよ。はじめに親子で來たときは、子どもにつきつきりだつたお母さんが「ちよつとうちの子を見てて」って、人に言えるようになつたりして。

夢は自分の子どもと

一緒にNPOの活動へ

入江 私の夢は、自分の子どもと一緒に岡山プレーパークに行くこと。

入江 どんな仕事に就いても、自分がそこで何をしてくれるか、それ以外の心配。どんな仕事に就いても、絶対おもしろいと思えるポイントはあると思うから、それを見つけてほしい。何してもこれでもいいんだつて思うことはないだろうし、ずっと悩むと思う。一歩踏み出してみる必要があるんだと思うよ。

二人 わあ、いいなあ。

入江 私たちは今就職活動中なんですけど…実は迷いと不安がいっぱいなんです。

入江 本気で子どもたちの面倒を見ようという大人がいてくれるし、けがをしても救急の対応してもらえられる。自分の子どもだったら「転んだつていいじゃん」なんて思わないかもしれないけど(笑)プレーパークに行くと、その地域のことにすごく詳しい人に出会えるし、気軽に声をかけられるから、転動してきた人もすごく多いよ。それに大人が少なくなる片づけの時間や、人が少ない雨の日をねらつて遊びにくる子もいるんだよね。それと、プレーパーク

采女 楽しんで就職活動できたらしいなつて思います。いろんな人の話が聞けるのでこれからの役に立てばいいなつて。インターンシップに参加して、人と話をするのつて楽しいなつてす

入江 ごく思いました。よかつた。また來てね。

(取材・編集 眞壁)

NPO法人 岡山市子どもセンター

子どもの社会参画の機会の拡充を図るとともに、子ども劇場をはじめとする子どもに関する諸団体に対して、連絡、交流、支援等の事業を行い、子どもの豊かな成長に寄与することを目的に活動を行っている。活動内容は舞台芸術鑑賞会やワークショップ・講演会の開催、子育て支援、子どもの体験の場づくり等。通年、ボランティア募集中。

<事務所>

〒701-0144
岡山市北区久米348 旧白石幼稚園内
TEL 086-242-1810 FAX 086-242-1830
E-mail kodomo-npo@mx91.tiki.ne.jp
URL <http://www.kodomo-npo.jp/>



④ 山村 遙さん (21)
⑤ 采女 有紀さん (21)
就実大学 人文科学部
表現文化学科 3年生。



⑥ 入江 志穂さん (33)
NPO法人岡山市子どもセンターのプレーパークでリーダーとして活動している。

平成22年度 岡山県ボランティア・NPO人材育成研修事業

やりがい120%のシゴト!に、
インターンシップ!

報告会を開催しました!

インターンシップ全参加者28名のうち、13名が参加。受け入れしたNPOのスタッフ、企画委員の方も交えて、総勢26名の白熱した会となりました。

それぞれの団体から成果の報告、質問等を交え、最後は、「やりがいは、何%だったのか?」をみんなで発表!(平均は、83点でした。)閉会後は、打ち上げパーティーも行い、大いに盛り上がりました。今後につながるいい出合いをコーディネートできたかなと考えます。

今後、ゆうあいセンターでは、今回の成果の一部を利用者交流会で報告する予定です。

*今回の報告会に参加したインターン生が活動を行った団体は、以下のとおり

NPO法人 岡山市子どもセンター / NPO法人 吉備野工房ちみち
NPO法人 子育て応援ナビぽっかぽか / NPO法人 岡山NPOセンター
NPO法人 岡山県社会就労センター協議会 (岡山県セルフセンター)



あなたにとって NPO って？



今回は県内で初めて公立幼稚園に子育てひろば「ひろば・ぽっかぽか」を開設。また、カフェ「みんなのぽっか cafe」を倉敷物語館内にオープンさせるなど、活躍中のNPO法人子育て応援ナビぽっかぽか 理事長 田口陽子さんにお話を伺いました。

そもそも活動のきっかけはなんだったんでしょうか。
我が子の不登校を体験したことで、それをきっかけに二人の仲間を得ることができたことが活動の原点になっています。「我が子を信じること」「人とつながること」など、その重要性を実感しながらいろんな場で学んできました。そ

の経験があったので、「乳幼児期」の親子に関わりたと思ったのです。

親が「こう育てたい」ではなく子どもが「どう育ちたい」のか、我が子にしっかりと向き合う力をお母さんたちに持つてもらうために、私たちのできることは何かを考えました。

子どもの持つ力を信じるというのは難しいけれど、とても大切なことだということを、現在子育て中のお母さんに少しでも早く気づいてもらいたいと思いました。

自分の失敗談ならいっぱいあるので、その経験なら伝えられるというところからスタートしました。私自身、立派な親ではないことは自覚していますから(笑)。「子育てひろば」と「カフェ」への想いを聞かせてください。

人は一人では生きられない、だからこそ、人と人がつながる場所をつくりたい。

赤ちゃんが生まれて初めて出会う信頼できる人は、お母さん。子どもの声は、お母さんが本気で

聞こうとしないと聞こえてきません。

でも、同時にそのお母さんたちも話を聞いてもらいたいと思っていきます。お母さんが話のできる友だちや先輩お母さんと出会う場所が「ひろば」です。そして、子どもたちにとっては一緒に遊ぶ友だち、お兄さん、お姉さん、さらに家族以外のおとなと出会う場所なのです。

平成20年8月に、そんな「ひろば」をつくりたいという自分たちの夢を倉敷駅前商店街で形にしました。翌年、地域子育て支援拠点事業として倉敷市の委託を受けることができ、今年(平成22年)10月には倉敷市立倉敷幼稚園の空き教室に移転することができました。「ひろば」で出会う子どもたちやお母さんの笑顔が私たちにがんばる力を与えてくれます。

また、「カフェ」もお客さまと笑顔でつながる場所です。子どもを寝かせるベンチやベビーカーを横付けできるテーブルの配置等の工夫はありますが、子育て支援力

フエではありません。

「ひろば」は乳幼児と保護者の居場所、「カフェ」は赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで世代を超えたみんなの居場所です。ここにすれば一人ではないと思っただけのとうれしいです。

では最後に田口さんにとって、NPOって一言で言うって？

NPOを一言で言うって「生きがい」、生きるパワーをもらえる場です。子どもはもちろん出会う人みんなからパワーをもらっています。「人と出会う喜び」があるからがんばられています。息子からは「道楽」と言われますが(笑)

(取材・編集 小川)

「特定非営利活動法人
子育て応援ナビぽっかぽか」
〒710-0055
岡山県倉敷市中央2丁目7-1
TEL/FAX 086-427-5550
<http://www.ac.auone-net.jp/~pokkapon/>
理事長 田口 陽子

